

札幌リハビリテーション専門学校

理学療法士科「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表

| 科目名 | 時間数 | 学年 | 実務経験 |
|-------------|-----|----|---|
| ソーシャルスキルⅠ | 30 | 1年 | 臨床経験ある理学療法士がその経験を生かし、医療施設での理想とされる医療従事者としての社会的技術(話すこと、聞くこと、礼節、マナー)について講義する。 |
| ソーシャルスキルⅡ | 45 | 1年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし講義を担当する。 |
| ソーシャルスキルⅢ | 60 | 1年 | 理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし臨床実習全般にわたる心得を講義する。 |
| 解剖学Ⅰ | 30 | 1年 | 歯科医師として臨床経験がある教員が、その経験を生かし解剖の基本を講義する。 |
| 身体運動機能学Ⅰ | 60 | 1年 | 歯科医師として臨床経験がある教員が、その経験を生かし解剖の基本を講義する。 |
| 身体運動機能学Ⅱ | 30 | 1年 | 理学療法士および作業療法士として授業内容に関わる臨床経験を有する教員が担当する。 |
| 人間発達学 | 30 | 1年 | 作業療法士として重症心身障害児者の入所施設、高機能の発達障害の外来やデイサービスなど発達分野で長年の臨床経験から得たものも含みながら講義する。現在は0歳からの介入によってその後の困り感を減らすために赤ちゃんの研究中である。 |
| リハビリテーション医学 | 15 | 1年 | 医師として臨床経験ある非常勤講師が、その経験を生かしリハビリテーション医学について講義する。 |
| 地域福祉概論 | 30 | 1年 | 精神保健福祉士としての臨床経験を生かして、地域福祉について講義する。 |
| リハビリテーション概論 | 15 | 1年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし理学療法について講義する。 |
| 理学療法概論 | 30 | 1年 | 理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし理学療法概論を講義する。 |
| 理学療法概論演習 | 45 | 1年 | 理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし理学療法について講義する。 |
| 理学療法総合演習Ⅰ | 60 | 1年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし解剖学・生理学の知識について講義する。 |
| 理学療法基礎評価学 | 30 | 1年 | 理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし理学療法評価の基本を講義する。 |
| 臨床見学実習 | 45 | 1年 | 臨床で勤務している理学療法士と理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし理学療法について指導する。 |
| 身体運動機能学演習 | 30 | 2年 | 歯科医師として臨床経験がある教員が、その経験を生かし解剖の基本を講義する。 |
| 生理機能演習 | 30 | 2年 | 理学療法士として臨床経験がある教員が、その経験を生かし機器を使用した生理機能評価を実演、指導する。 |
| 運動学 | 30 | 2年 | 理学療法士として臨床経験を有する教員が授業を担当する。 |
| 運動学実習 | 60 | 2年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし、実技を交えながら運動学について講義・実習をする。 |
| 疾患の成り立ち | 15 | 2年 | 歯科医師として実務経験のある講師が、その経験を活かし講義を担当する。 |
| 薬の作用と救急対応 | 15 | 2年 | 臨床工学技士、理学療法士として臨床経験のある教員が、救急対応等の講義を行う。 |
| 内部障害学Ⅰ | 15 | 2年 | 内科医として医療機関に勤務し、医療従事者養成機関で内科学に関する講義経験のある講師が講義する。 |
| 内部障害学Ⅱ | 15 | 2年 | 医師として臨床経験のある教員が内部障害学を講義する。 |

| 科目名 | 時間数 | 学年 | 実務経験 |
|---------------|-----|----|---|
| 運動器障害学Ⅰ | 15 | 2年 | 医師として臨床経験ある講師が、その経験を生かし臨床に即した運動器障害学Ⅰを講義する。 |
| 運動器障害学Ⅱ | 15 | 2年 | 医師として臨床経験ある講師が、その経験を生かし臨床に即した運動器障害学Ⅱを講義する。 |
| 神経障害学Ⅰ | 15 | 2年 | 医師、理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かして講義する。 |
| 神経障害学Ⅱ | 15 | 2年 | 医師として臨床経験を有する講師が、その経験を生かして講義する。 |
| 精神障害学 | 30 | 2年 | 精神科医、内科医として医療機関に勤務経験のある講師が、その経験を生かし、講義をする。 |
| 発達障害学 | 15 | 2年 | 理学療法士として臨床経験のある教員・作業療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし発達障害学について講義をする。 |
| 言語聴覚障害学 | 15 | 2年 | 言語聴覚士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし言語聴覚障害の基本を講義する。 |
| 理学療法障害学 | 30 | 2年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし障害像の捉え方について講義をする。 |
| 理学療法総合演習Ⅱ | 60 | 2年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし国家試験問題について講義をする。 |
| 理学療法基礎評価学実習 | 45 | 2年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし各検査方法のポイントを解説し、実技の実演・指導をしながら、基本的な理学療法評価技術について講義する。 |
| 医療情報評価学 | 30 | 2年 | 理学療法士として臨床経験を有する教員が、その経験を生かし授業を担当する。 |
| 運動器障害理学療法評価法 | 30 | 2年 | 理学療法士として運動器障害分野に関わる臨床経験を有する教員が、運動器障害理学療法評価の思考過程と方法およびリスク管理について授業を担当する。 |
| 中枢神経障害理学療法評価法 | 30 | 2年 | 理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし理学療法について講義する。 |
| 発達障害理学療法評価法 | 15 | 2年 | 理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし発達障害の評価について講義する。 |
| 内部障害理学療法評価法 | 30 | 2年 | 理学療法士として臨床経験を有する講師が、呼吸器障害、循環器障害、内部障害の評価方法について授業を担当する。 |
| 理学療法評価学総合演習Ⅰ | 30 | 2年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし授業を担当する。 |
| 運動療法総論 | 30 | 2年 | 理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし運動療法総論を講義する。 |
| 物理療法 | 45 | 2年 | 理学療法士として整形外科分野での臨床経験がある教員が、物理療法の基礎と基本的な使用方法について講義・演習をする。 |
| 日常生活活動学 | 30 | 2年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし日常生活における理学療法評価の基本、生活の質について講義する。 |
| 臨床検査実習 | 45 | 2年 | 臨床で勤務している理学療法士と理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし理学療法について指導する。 |
| 老年期障害学 | 15 | 3年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし加齢による生理的变化およびリハビリテーションの特性について講義をする。 |
| 研究方法論 | 30 | 3年 | 理学療法士として臨床経験があり、大学院で研究に従事した教員が、その経験を生かし研究方法について講義をする。 |
| 理学療法研究 | 60 | 3年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし研究テーマの選定、研究計画の立案、研究方法、実験機器の操作方法、統計処理、発表方法、論文作成方法についてアドバイスする。 |
| 理学療法総合演習Ⅲ | 30 | 3年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし国家試験問題に関する講義をする。 |
| 理学療法文献読解 | 15 | 3年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし文献読解について講義する。 |

| 科目名 | 時間数 | 学年 | 実務経験 |
|--------------|-----|----|--|
| 理学療法評価学総合演習Ⅱ | 30 | 3年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし授業を担当する。 |
| 運動器障害理学療法Ⅰ | 30 | 3年 | 理学療法士として運動器障害分野に関わる臨床経験を有する教員が、運動器障害理学療法の思考過程と方法および理学療法中のリスク管理について授業を行う。 |
| 運動器障害理学療法Ⅱ | 45 | 3年 | 理学療法士として運動器障害分野(スポーツリハビリテーション含)に関わる臨床経験を有する教員が、運動器障害理学療法の思考過程と方法および理学療法中のリスク管理について授業を担当する。 |
| 中枢神経障害理学療法Ⅰ | 30 | 3年 | 理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし理学療法について講義する。 |
| 中枢神経障害理学療法Ⅱ | 30 | 3年 | 理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし理学療法について講義する。 |
| 発達障害理学療法Ⅰ | 30 | 3年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし小児の理学療法について講義をする。 |
| 発達障害理学療法Ⅱ | 30 | 3年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし小児の理学療法について講義をする。 |
| 内部障害理学療法Ⅰ | 30 | 3年 | 理学療法士として呼吸器疾患の分野での臨床経験がある講師が、その経験を生かし各疾患に対する理学療法やリスク管理、実際について講義し、実技の実演・指導もする。 |
| 内部障害理学療法Ⅱ | 45 | 3年 | 理学療法士として神経難病・内分泌疾患・循環器疾患の各分野での臨床経験がある教員が、その経験を生かし各疾患に対する理学療法やリスク管理、実際について講義する。 |
| 装具関連理学療法 | 30 | 3年 | 理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし臨床に即した装具関連理学療法を講義する。 |
| 義肢関連理学療法 | 30 | 3年 | 理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし臨床に即した義肢関連理学療法を講義する。 |
| 理学療法特論Ⅰ | 30 | 3年 | 理学療法士として各分野での臨床経験のある講師がその経験を生かし、がん、呼吸器疾患、神経難病、中枢神経系疾患、地域リハビリテーション、徒手理学療法の基本や考え方、治療体系や技術を講義・演習する。 |
| 理学療法特論Ⅱ | 15 | 3年 | 各分野で理学療法士として臨床経験のある非常勤講師が、その経験を生かしバランス検査や人工呼吸器の基本を講義・演習する。 |
| 理学療法治療学演習Ⅰ | 30 | 3年 | 理学療法士として運動器障害・中枢神経障害の分野での臨床経験がある教員が、その経験を生かし各分野に対する理学療法の思考過程について講義・添削指導をする。 |
| 理学療法治療学演習Ⅱ | 30 | 3年 | 各分野で理学療法士として臨床経験のある講師がその経験を生かし、PNF、スリングセラピー、脳血管障害・整形外科疾患の理学療法の基本や考え方、治療体系や技術を講義・演習する。 |
| 地域リハビリテーション | 30 | 3年 | 理学療法士として臨床経験ある講師が、その経験を生かし地域リハビリテーションについて講義する。 |
| 生活環境学 | 30 | 3年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、生活環境および住環境整備について講義する。 |
| 臨床実習Ⅰ | 225 | 3年 | 臨床で勤務している理学療法士と理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし理学療法について指導する。 |
| ソーシャルスキルⅣ | 30 | 4年 | 理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし臨床現場での礼節や就職を前提とした社会的技術について講義する。 |
| 理学療法総合演習Ⅳ | 90 | 4年 | 理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし国家試験対策講義を実施する。 |
| 理学療法管理学 | 30 | 4年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし理学療法管理学について講義をする。 |
| 理学療法特論Ⅲ | 15 | 4年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし臨床に即した講義・実技を行う。 |
| 地域理学療法学 | 30 | 4年 | 理学療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし理学療法について講義する。 |
| 臨床実習Ⅱ | 315 | 4年 | 臨床で勤務している理学療法士と理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし理学療法について指導する。 |
| 臨床実習Ⅲ | 315 | 4年 | 臨床で勤務している理学療法士と理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし理学療法について指導する。 |

| 科目名 | 時間数 | 学年 | 実務経験 |
|-----|------|----|------|
| 合計 | 3060 | | |

札幌リハビリテーション専門学校

作業療法士科「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表

| 科目名 | 時間数 | 学年 | 実務経験 |
|--------------|-----|----|---|
| ソーシャルスキルⅠ | 30 | 1年 | 作業療法士として臨床経験のある教員が、医療機関で求められる社会人としての基礎を実技を交え、講義する。 |
| 解剖学Ⅰ | 30 | 1年 | 歯科医師として臨床経験がある教員が、その経験を生かし解剖の基本を講義する。 |
| 身体運動機能学Ⅰ | 60 | 1年 | 歯科医師として臨床経験がある教員が、その経験を生かし解剖の基本を講義する。 |
| 身体運動機能学Ⅱ | 30 | 1年 | 理学療法士および作業療法士として授業内容に関わる臨床経験を有する教員が担当する。 |
| 人間発達学 | 30 | 1年 | 作業療法士として重症心身障害児者の入所施設、高機能の発達障害の外来やデイサービスなど発達分野で長年の臨床経験から得たものも含みながら講義する。 |
| リハビリテーション医学 | 15 | 1年 | 医師として臨床経験ある講師が、その経験を生かしリハビリテーション医学について講義する。 |
| 社会福祉学 | 30 | 1年 | 社会福祉士、ソーシャルワーカーとして地域福祉や精神障害者福祉の実践現場経験を踏まえ、事例を多数用いて授業を行う。 |
| リハビリテーション概論 | 15 | 1年 | 作業療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かしリハビリテーションの概論を講義する。 |
| 作業療法概論Ⅰ | 30 | 1年 | 作業療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし講義する。 |
| 作業療法概論Ⅱ | 30 | 1年 | 作業療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし担当する。 |
| 基礎作業学 | 30 | 1年 | 作業療法士として臨床経験がある教員が、その経験を生かし基礎作業学の基本を講義する。 |
| 基礎作業学実習 | 90 | 1年 | 作業療法士として臨床経験がある教員が、その経験を生かし作業療法学実習の基本を講義する。 |
| 身体障害作業療法評価学Ⅰ | 15 | 1年 | 作業療法士として授業内容に関わる臨床経験を有する教員が担当する。 |
| 地域作業療法学Ⅰ | 15 | 1年 | 作業療法士として臨床経験がある教員が、その経験を生かし地域作業療法の基本を講義する。 |
| 臨床見学実習 | 45 | 1年 | 臨床で勤務している作業療法士と作業療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし指導する。 |
| ソーシャルスキルⅡ | 15 | 2年 | 作業療法士として臨床経験のある教員、秘書検定1級を有する経験豊富な講師が、医療機関で求められる社会人としての基礎を実技を交え、講義する。 |
| 身体運動機能学演習 | 30 | 2年 | 歯科医師として臨床経験がある教員が、その経験を生かし解剖の基本を講義する。 |
| 生理学演習 | 30 | 2年 | 作業療法士として臨床経験がある教員が、その経験を生かし各データの記録、解釈について講義を担当する。 |
| 運動学 | 30 | 2年 | 理学療法士として臨床経験を有する教員が授業を担当する。 |
| 運動学実習 | 45 | 2年 | 作業療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし動作分析・運動分析を基本とした実習を行う。 |
| 疾患の成り立ち | 15 | 2年 | 歯科医師として実務経験のある講師が、その経験を活かし講義を担当する。 |
| 予防と疾病管理 | 15 | 2年 | 臨床工学技士、薬剤師、管理栄養士、作業療法士として経験ある講師が、その経験を生かし臨床に即した講義をする。 |
| 内部障害学Ⅰ | 15 | 2年 | 内科医として医療機関に勤務し、医療従事者養成機関で内科学に関する講義経験のある講師が講義する。 |
| 内部障害学Ⅱ | 15 | 2年 | 医師として臨床経験のある教員が内部障害学を講義する。 |
| 運動器障害学Ⅰ | 15 | 2年 | 医師として臨床経験ある講師が、その経験を生かし臨床に即した講義をする。 |
| 運動器障害学Ⅱ | 15 | 2年 | 医師として臨床経験ある講師が、その経験を生かし臨床に即した講義する。 |
| 神経障害学Ⅰ | 15 | 2年 | 医師、理学療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かして講義する。 |
| 神経障害学Ⅱ | 15 | 2年 | 医師として臨床経験を有する講師が、その経験を生かして講義する。 |

| 科目名 | 時間数 | 学年 | 実務経験 |
|---------------|-----|----|---|
| 精神障害学 | 30 | 2年 | 精神科医、内科医として医療機関に勤務経験のある講師が、その経験を生かし、講義をする。 |
| 臨床精神障害学 | 15 | 2年 | 作業療法士として臨床・研究・教育現場での経験がある教員が、その経験を生かした講義をする。 |
| 発達障害学 | 15 | 2年 | 理学療法士として臨床経験のある教員・作業療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし発達障害学について講義をする。 |
| 言語聴覚障害学 | 15 | 2年 | 言語聴覚士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし言語聴覚障害の基本を講義する。 |
| 作業療法研究法Ⅰ | 15 | 2年 | 作業療法士として臨床経験がある教員が、その経験を生かし作業療法研究の基本を講義する。 |
| 作業療法基礎演習Ⅰ | 30 | 2年 | 作業療法士として臨床経験がある教員がその経験を生かし国家試験問題を解説する。 |
| 身体障害作業療法評価学Ⅱ | 30 | 2年 | 作業療法士として授業内容に関わる臨床経験を有する教員が担当する。 |
| 身体障害作業療法評価学実習 | 45 | 2年 | 作業療法士として授業内容に関わる臨床経験を有する教員が担当する。 |
| 精神障害作業療法評価学 | 30 | 2年 | 作業療法士として臨床経験がある教員が、その経験を生かし作業療法評価の基本を講義する。 |
| 精神障害作業療法評価学実習 | 45 | 2年 | 作業療法士として臨床経験がある教員が、その経験を生かし作業療法評価の基本を講義する。 |
| 発達障害作業療法評価学 | 30 | 2年 | 作業療法士として臨床経験のある教員がその経験を生かして講義する。 |
| 老年期障害作業療法評価学 | 30 | 2年 | 作業療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし老年期障害作業療法評価を講義する。 |
| 運動器障害関連作業療法学 | 15 | 2年 | 作業療法士として臨床経験がある教員、非常勤講師がその経験を生かし運動器疾患における作業療法の基本について講義する。 |
| 内部障害関連作業療法学 | 15 | 2年 | 作業療法士として臨床経験がある教員がその経験を生かし内部疾患における作業療法の基本について講義する。 |
| 発達障害作業療法学 | 30 | 2年 | 作業療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし講義する。 |
| 日常生活活動学 | 45 | 2年 | 作業療法士として授業内容に関わる臨床経験を有する教員が担当する。 |
| 高次脳機能障害作業療法学 | 30 | 2年 | 作業療法士として授業内容に関わる臨床経験を有する教員が担当する。 |
| 地域作業療法学Ⅱ | 30 | 2年 | 作業療法士として臨床経験のある教員、講師が、その経験を生かし地域作業療法を講義する。 |
| 地域作業療法学実習 | 45 | 2年 | 作業療法士として臨床経験のある教員、講師、また各施設の作業療法士、精神保健福祉士等が、その経験を生かし地域作業療法を講義、実習指導をする。 |
| 生活環境学 | 30 | 2年 | 作業療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かして住環境整備について講義する。 |
| 在宅リハビリテーション実習 | 45 | 2年 | 臨床で勤務している作業療法士と作業療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし作業療法について指導する。 |
| ソーシャルスキルⅢ | 15 | 3年 | 作業療法士として臨床経験のある教員、秘書検定1級を有する経験豊富な講師が、医療機関で求められる社会人としての基礎を実技を交え、講義する。 |
| 医療関係法規 | 15 | 3年 | 司法書士として実務経験を有する講師が医療、福祉に関連する法律について講義する。 |
| 作業療法研究法Ⅱ | 15 | 3年 | 作業療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし作業療法研究の基本を講義する。 |
| 作業療法総合演習 | 60 | 3年 | 作業療法士として授業内容に関わる臨床経験を有する教員が担当する。 |
| 作業療法基礎演習Ⅱ | 30 | 3年 | 作業療法士として臨床経験がある教員がその経験を生かし国家試験問題を解説する。 |
| 身体障害作業療法学 | 45 | 3年 | 作業療法士として身体障害領域で臨床経験のある教員が担当する。 |
| 身体障害作業療法学実習 | 45 | 3年 | 作業療法士として身体障害領域で臨床経験のある教員が担当する。 |
| 精神障害作業療法学 | 45 | 3年 | 作業療法士として臨床経験がある教員が、その経験を生かし作業療法の基本を講義する。 |
| 精神障害作業療法学実習 | 45 | 3年 | 作業療法士として臨床経験がある教員が、その経験を生かし作業療法実践の基本を講義する。 |

| 科目名 | 時間数 | 学年 | 実務経験 |
|--------------|------|----|---|
| 発達障害作業療法学実習 | 45 | 3年 | 作業療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かし講義や実習をする。 |
| 老年期障害作業療法学 | 30 | 3年 | 作業療法士として老年期障害領域で臨床経験のある教員が担当し、老年期・生活期における作業療法について講義する。 |
| 老年期障害作業療法学演習 | 30 | 3年 | 作業療法士として老年期障害領域で臨床経験のある教員が担当し、老年期・生活期における作業療法について講義する。 |
| 日常生活活動学実習 | 45 | 3年 | 作業療法士として授業内容に関わる臨床経験を有する教員が担当する。 |
| 装具関連作業療法学 | 30 | 3年 | 作業療法士または理学療法士として臨床経験のある教員が担当する。 |
| 作業療法各論 | 30 | 3年 | 作業療法士として臨床経験ある講師が、その経験を生かしハンドセラピーに関する講義・演習を実施する。 |
| 臨床実習Ⅰ | 225 | 3年 | 臨床で勤務している作業療法士と作業療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし作業療法について指導する。 |
| 卒業研究Ⅰ | 30 | 3年 | 作業療法士として臨床経験がある教員が、その経験を生かし作業療法研究の基本を講義する。 |
| 作業療法概論Ⅲ | 15 | 4年 | 作業療法士として臨床経験がある講師がその経験を生かし最新の作業療法について講義する。 |
| 作業療法管理学 | 15 | 4年 | 作業療法士としての臨床経験ある教員が、その経験を生かして講義を担当する。 |
| 作業療法学特論 | 60 | 4年 | 作業療法士・理学療法士等の専門職種として臨床経験がある教員が、その経験を生かし国家試験の対策について講義する。 |
| 作業療法学特論演習 | 60 | 4年 | 作業療法士の臨床経験がある教員が、その経験を生かし国家試験の対策について講義する。 |
| 職業関連作業療法学 | 15 | 4年 | 作業療法士として臨床経験のある教員が講義する。 |
| 臨床実習Ⅱ | 405 | 4年 | 臨床で勤務している作業療法士と作業療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし作業療法について指導する。 |
| 臨床実習Ⅲ | 405 | 4年 | 臨床で勤務している作業療法士と作業療法士として臨床経験ある教員が、その経験を生かし作業療法について指導する。 |
| 卒業研究Ⅱ | 60 | 4年 | 作業療法士として研究に従事した経験がある教員が、その経験を生かし作業療法研究の基本を講義する。 |
| 合計 | 3195 | | |